京都経済文化事業創造塾 塾長
ジャパンライフデザインシステムズ 代表取締役
谷口正和氏

感性を磨き 構想する“庭”

京都は、世界から預かった日本文化の拠点である。平安遷都の頃より、そこで培われてきた未来像が、今の日本の姿となって表れているのだ。まさにこれまでに京都が引き受けてきた役割を勘案すれば、日本各地の構想都市としては重要な役割を果たしてきたといえるのではないだろうか。

日本の文化拠点である京都をより小さな単位で捉えたとき、平安貴族の別荘として百人一首にも詠まれている小倉山の山麓は、とても魅力的な土地だったに違いない。それは精神的な意味、美学的な価値、創造的な視点を内包した重要な役割を果たしていたはずだ。

洛中で日々巻き起こる諍いから解放され、心に安らぎをもたらしていた。そこで英気を養い、再び洛中に飛び込んでいく。そういう姿が想像できる。つまり、小倉山の山麓は、これまでの日本を形作っていく上での大きなインキュベーション拠点として稼働してきたのだ。

それから月日は流れて、現在。生命力を感受する時代となり、再び京都に注目が集まっている。インキュベート拠点という役割から目を背けていてはいけない。

「発想の解放区」をもって小倉山麓で住むという新しい暮らしは、“構想の庭”として機能していくことだろう。物から心への価値観が移行し、学習によって未来を引き受けていく暮らしとなった今、より知識や知恵、精神的な部分の価値を顕在化させていく必要がある。

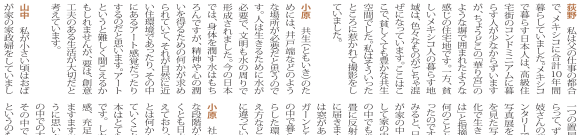
そういう背景からも、土地の個性が問われている。それが、小倉山・嵯峨二尊院の「華り宮」では、未来構想の拠点として新たな価値を創出していくには、十分過ぎるほどのバックボーンがある。そこに思いを馳せて、日常における小さな変化をつむぎだしていってもらいたい。そして、これらを日々の最鋒だと認識することができれば、京都という土地がより魅力的に見えてくることだろう。

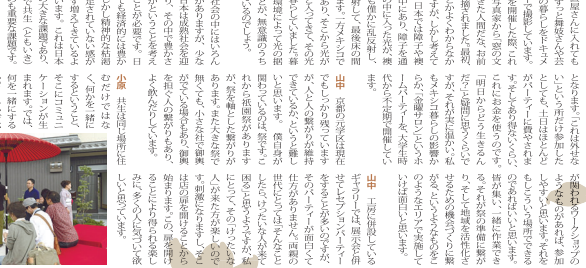
近代化が排除してきた自然と歴史をもう一度見直すとき、千年単位でタイムスリップできるのは京都だけだ。京都の伝統文化に高い関心を持つ人が増えてきている。お金と時間を使えるような場所を提供することで、重厚な文化を持つ京都の注目はさらに増強されていくはずだ。

自然との共生という枠組みに、文化、歴史を加味して、京都そのものを考察していく。それは平安貴族が思案する未来の可能性と類似しているのではないだろうか。平安時代に同じ場所で、同じ感覚で社会を眺めたとき、次なるパラダイムが見えてくるのかもしれません。

このことにすでに気付いている人が参画し、村を形成していくことができれば、日本だけではなく世界にとってもすばらしい価値が創出されていく。歴史文化と自然とが融合するこの地が未来社会の発祥点となるのではないかと期待してやまない。

広告





▲ランディ・チャネル京都さんによるお手前。深くなる緑の中での野点を楽しみました。

▲京都観光文化事業創造塾のコーディネートによる室内の設え。

「小倉山・嵯峨二尊院 華り宮」オープニングイベント

暮らし×京都の技×美意識

京都文化の担い手、研究者や識者によるリレートーク
日時／6月30日（日）14時～18時
監修／谷口正和氏（京都観光文化事業創造塾 塾長 ジャパンライフデザインシステムズ 社長）

第1ステージ
「発想の解放区・小倉山麓で暮らすということ」
山崎芙紗子氏（京都学園大学人間文化学部長）
細辻伊兵衛氏（永楽屋 14代 細辻伊兵衛）
玉村　咏氏（染色家　そめこうげい・代表）
寺前浄因氏（圓林院住職）

第2ステージ
「人々との共生（ともいき）による暮らし」
荻野NAO之氏（写真家）
小原啓渡氏（ART COMPLEX プロデューサー）
山中源兵衛氏（創業7代 山中源兵衛）

嵯峨二尊院に生まれた新しいまち。
歴史や物語が蓄積されたこのまちは、感性を磨き、
自らの生き方を構想する“庭”と
位置づけることができるのではないでしょうか。
住まいの役割や暮らし方が
立地によって変わってきている今、「京都に暮らすということ」を考え、
どう実現するかについて話し合いました。

◆日時：2013年6月29日（土）・30日（日）11時～18時
◆主催：小倉山・嵯峨二尊院プロジェクト委員会
◆共催：株式会社 ゼロ・コーポレーション
◆後援：京都市、京都商工会議所、京都新聞社
◆協力：京都観光文化事業創造塾

第一ステージ
「発想の解放区・小倉山麓で暮らすということ」

京都府京都文化博物館 学芸課長
山崎芙紗子氏

永楽屋 14代細辻伊兵衛
細辻伊兵衛氏

染色家
玉村　咏氏

圓林院住職
寺前浄因氏

嵯峨二尊院は、平安京遷都と、その後の朝廷が今の大覚寺で二つの地に造営を行ったことで、離れて静かに暮らすことを求めていました。現在でも西行法師が詠んだ「我が庵は都のたつみしかぞすむ　世をうぢ山と人はいふなり」の歌碑があります。

嵯峨二尊院は、小倉山の山麓に位置し、大きな池泉を造り、また、「これが現在の大沢の池のもっとも古い姿である」と言われる遺構があります。

京都の産業構造が古くからの着物産業から、ネットワークを持つ人と共有していくことも大事になってくるのです。

そして、2100年後、200年後にこの時代、どのように評価されるかということを考えていくことが、京都の役割だと思います。

京都の産業構造が古くからの着物産業から、ネットワークを持つ人と共有していくことも大事になってくるのです。

そして、2100年後、200年後にこの時代、どのように評価されるかということを考えていくことが、京都の役割だと思います。

確かな源流から40歳代の若手染織作家まで、私たちがコラボレーションを通じて、新しい染織の世界を創造していきます。

京都の産業構造が古くからの着物産業から、ネットワークを持つ人と共有していくことも大事になってくるのです。

そして、2100年後、200年後にこの時代、どのように評価されるかということを考えていくことが、京都の役割だと思います。

永楽屋は戦国時代に創業して以来、織田信長ら武将の御用達として商売をしてきました。

私どもは繊維にポイントを置いた商売をしてきました。

永楽屋は戦国時代に創業して以来、茶文化が浸透し、私が着手してから約400年になります